



株式会社一本義久保本店
代表取締役 久保 善央さん

近年、和食文化の広がりと共に、世界中で注目されている飲み物があります。そう、それは日本酒です。弊社は、勝山に所在する創業114年の日本酒製造会社ですが、現在16カ国に向けて出荷をしています。食は、生きるための栄養補給のみならず、人が人生において最も回数を重ねる楽しみ(エンターテインメント)の時間でもあります。酒は食と寄り添うことで、食を美味しく、豊かに、華やぎを与え、そして会話をさらに楽しくしてくれる飲み物です。世の中にはたくさんの種類の飲料がありますが、その地域風土があるからこそつくることの出来る、最たる一つが日本酒ではないでしょうか。豊峰白山の雪解け水、奥越前の地で篤農家の皆さんと育てる酒米、雪深い寒冷な気候。この3つの背景が無ければ一本義は生まれません。そしてこの3つの背景のもとに、福井の、日本の、そして世界の食卓に魔法をかける飲み物を提供できるよう、思いを込めて酒を醸しています。

株式会社 一本義久保本店

本社：勝山市沢町1-3-1
設立：2000年2月(1902年12月創業)
代表者：代表取締役 久保 善央
事業内容：清酒「一本義」「伝心」、本格焼酎、リキュールの製造・販売
資本金：1500万円
従業員：40人
☎0779-87-2500
<http://www.ippongi.co.jp/>



きらり★企業20選

株式会社 一本義久保本店

若い力が加わり、福井を代表する
114年の伝統の酒の味を受け継ぐ。



福井工業大学
山崎健吾さん



Q 業務内容を教えてください

「一本義」と「伝心」の2つのブランドの日本酒の醸造を中心に、本格焼酎、梅酒などのリキュールも製造しています。「一本義」は114年の伝統を持つキレイの良い辛口の酒で、晩酌におすすめ。「伝心」は契約農家に栽培してもらった地元の酒米にこだわり、柔軟な姿勢で味づくりにチャレンジしています。日本酒の年間出荷量は一升瓶で50万本で、これは県内トップのシェア、全国1500社の中でも60位です。

Q トップシェアを獲得できる背景はどこにありますか

「一本義」は料理の邪魔をせず、楽しい食卓を演出できる酒。親や祖父の世代もなじみが深く「福井の日本酒」といえば「一本義」という思いも受け継がれていると思います。地元の新聞やテレビでの広告宣伝にも力を入れてきたことで、福井を、さらに勝山を代表する酒というブランドが確立できたのだと思います。手間をかけて造った酒を手にとってももらえるよう、デザインに配慮し、季節感のあるラベルにリニューアルするなどの取り組みも続けています。また仕事で社外の方と接する中で「一本義の村上さん」と覚えてもらえる方も増え、ブランドを背負って仕事をやる責任感と面白さも感じています(村上義紀管理課長)

Q 酒造りのこだわりを教えてください

「まず米にこだわっています。地元奥越の酒米を潤沢に使います。当社は(若手県)南部杜氏の醸造する酒の特徴であるクリアで透明感のある味わいを受け継いでおり、キレイな味がバランスよく調和した味を実現できるように、社内で技術の継承に努めています。そのためには温度管理などの最新技術による部分はもちろん、手触りや匂い、味など先人たちから引き継がれてきた経験も大きいです。仕事はつらいことや難しいことも多いですが、何十という工程を通して酒を「育て」、できあがった酒を搾って飲んだ時の感動は格別なものがあります(大井信積醸造課長)

Q 社内の雰囲気を見せてください

ここ数年で醸造課には若い人が増えて、平均年齢は30歳代です。かつては若手県・南部の杜氏集団が来ていましたが、高齢化が進むなど情勢が変わってきたことを受け、地元の若い人材を雇用して後継者の育成に取り組むようになりました。楽しい雰囲気の中にも、大切な酒造りの現場では技術を習得しようと、皆が頑張っています。「大きな会社ではないので、酒蔵のこちらで声をかければ、あちら側で「はい」と答えてコミュニケーションを取れるような風通しのよい会社です。仕事面でも商品のリニューアルや、試作品の醸造・作成など、アイデアがあればすぐに実現に向けて動き出します(小林一夫製造部長)

一本義久保本店の
ココがすごい!
酒をばぐくむ
風土を大切に、
地域貢献にも積極的。

1 新酒奉納



毎年元旦には会社近くの神明神社に社員が出向いて、樽に入った新酒を奉納。その酒は初詣の参拜者に振る舞われる。

2 一本義酒蔵まつり



二月の最終土日の勝山左義長まつりに合わせ、酒蔵を開放。酒蔵見学や蒸したて酒まんじゅうの販売、当日のみの限定酒の販売・有料試飲など人気を集めている。

3 九頭竜川
清掃に参加



勝山市の各種団体が参加して開かれる「クリーンアップ九頭竜川」に社を挙げて参加し、清掃に励む。地域の自然環境の保全にも積極的に関与している。

取材 Report

福井県を代表する酒造会社への訪問で、醸造の技術と伝統を受け継いでいくことの大切さや、県内で育ち愛されるお酒を造っているという気持ちに強く感じられました。従業員の方々の仲が良くフレンドリーな感じが魅力的で、地元が好きでな人は、素晴らしい職場だと思えます。社員の方々がやりがいを感じていて、ここで働くのが、まずは興味を持って「これが大事」と話されていた言葉も、仕事の意味を考へる上で強く印象に残っています。

